

平成 2 1 年 1 2 月 1 1 日 ・ 1 6 日

中央社会保険医療協議会

基本問題小委員会資料

新たな機能評価係数の導入等に関する検討結果

平成21年12月11日
診療報酬調査専門組織
DPC評価分科会
分科会長 西岡 清

I. 新たな機能評価係数の導入に係る対応について

1 新たな機能評価係数の設定

(1) 次回の診療報酬改定において、以下の7項目を導入することが妥当と考えた（参考資料2）。

- ① DPC病院として正確なデータを提出していることの評価
医療の質に係るデータを公開していることの評価
 - ② 効率化に対する評価
 - ③ 複雑性指数による評価
 - ④ 診断群分類のカバー率による評価
 - ⑤ 救急医療の入院初期診療に係る評価
 - ⑥ 医療計画で定める事業等について、地域での実施状況による評価
 - ⑦ 医師、看護師、薬剤師等の人員配置（チーム医療）による評価
- なお、⑤～⑦については、具体的な評価の基準について、更なる検討が求められる。

(2) 「検体検査管理加算」について、各診断群分類点数における包括評価から除外し、出来高点数の加算等に基づく機能評価係数に追加することが妥当と考えた。

2 包括対象からの除外

現在、各診断群分類の点数において包括評価されているもののうち、以下については、包括から除外することが妥当と考えた（参考資料3）。

- ・無菌製剤処理料
- ・術中迅速病理組織標本作製
- ・HIV感染症に使用する抗ウイルス薬（HIV感染症治療薬）
- ・血友病等に使用する血液凝固因子製剤
- ・慢性腎不全で定期的に実施する人工腎臓及び腹膜灌流

II. 調整係数の段階的廃止について

調整係数の廃止については、暫定調整係数及び基礎係数を設定し、対応することとしてはどうか（参考資料4、5）。

なお、暫定調整係数及び基礎係数の設定方法については、今後検討が求められる。

平成２２年改定における新たな機能評価係数の導入 （調整係数の段階的廃止）に関する対応（案）

第１ 新たな機能評価係数の導入について

平成２２年度診療報酬改定においては以下のような対応を行ってはどうか。

１．導入する具体的な機能評価係数

（１）項目（名称については要検討）（別紙１）

①以下の４項目については導入することとし、更なる作業に着手。

- ・〔項目１〕正確なデータ提出に係る評価
- ・〔項目２〕効率化に対する評価
- ・〔項目３〕複雑性指数による評価
- ・〔項目４〕診断群分類のカバー率による評価

②以下の２項目については、算出方法等の具体化作業に着手し、導入の可否も含めて速やかに検討。

- ・〔項目５〕救急医療の入院初期診療に係る評価
- ・〔項目６〕地域医療への貢献に係る評価

③「〔項目７〕チーム医療」については、診療報酬全体の議論と整合を図りながら、今回のＤＰＣでの対応について引き続き検討。

（２）各項目の重み付け

改定率等の決定を踏まえ、引き続き検討。

２．新・機能評価係数を含む医療機関別係数の設定方法

（１）今後の段階的対応を踏まえ（第２で後述）、ＤＰＣ対象病院全体として、現行調整係数による“上積み相当部分”のうち２５％相当を「新たな機能評価係数」の評価に置き換える（別紙２）。

（２）上記２．（１）と合わせて、各ＤＰＣ対象病院の暫定調整係数を次のように設定する。

①現行の調整係数設定方式に基づき算出した各病院の調整係数について、一律に一定の定数（別紙２・Ｐ２の「 λ （ラムダ）」）を乗じ、それを平成２２年度診療報酬改定の暫定調整係数とする。

②上記①の定数（λ）は、今後改定する診断群分類点数表（平成22年版）に基づく包括点数と上記2.（1）に基づき新たな係数評価で置き換えられる総点数等から算出される（別紙2）。

（3）上記（1）、（2）を踏まえ、最終的な医療機関別係数を次のように算出する。

$$\text{〔医療機関別係数〕} = \text{〔暫定調整係数〕} + \text{〔新・機能評価係数〕} + \text{〔現行の機能評価係数（※）〕}$$

※ 出来高点数の加算等に基づく機能評価係数については、従来どおりの取扱で設定する。

3. その他の算定ルール等の見直し

改定時に通常実施する診断群分類見直しや、既に対応方針が決定された入院期間に応じた点数設定方式の見直しのほか、次のような事項についても整理する。

（1）以下については、現行の包括評価対象を見直し、出来高で算定可能とする。

- ・ 無菌製剤処理料
- ・ 術中迅速病理組織標本作製
- ・ HIV感染症に使用する抗ウイルス薬（HIV治療薬）
- ・ 血友病等に使用する血液凝固因子製剤
- ・ 慢性腎不全で定期的実施する人工腎臓及び腹膜灌流

（2）医療法標準による医師等員数の基準を満たさない場合や特別入院基本料を算定する場合の取扱等については、出来高と同様の規定を設ける。

第2 調整係数の廃止に向けた対応について

（1）現行の調整係数については、激変緩和の観点から、平成22年も含めて4回の診療報酬改定を経て廃止することとし、合わせて新たな機能評価係数に転換する。

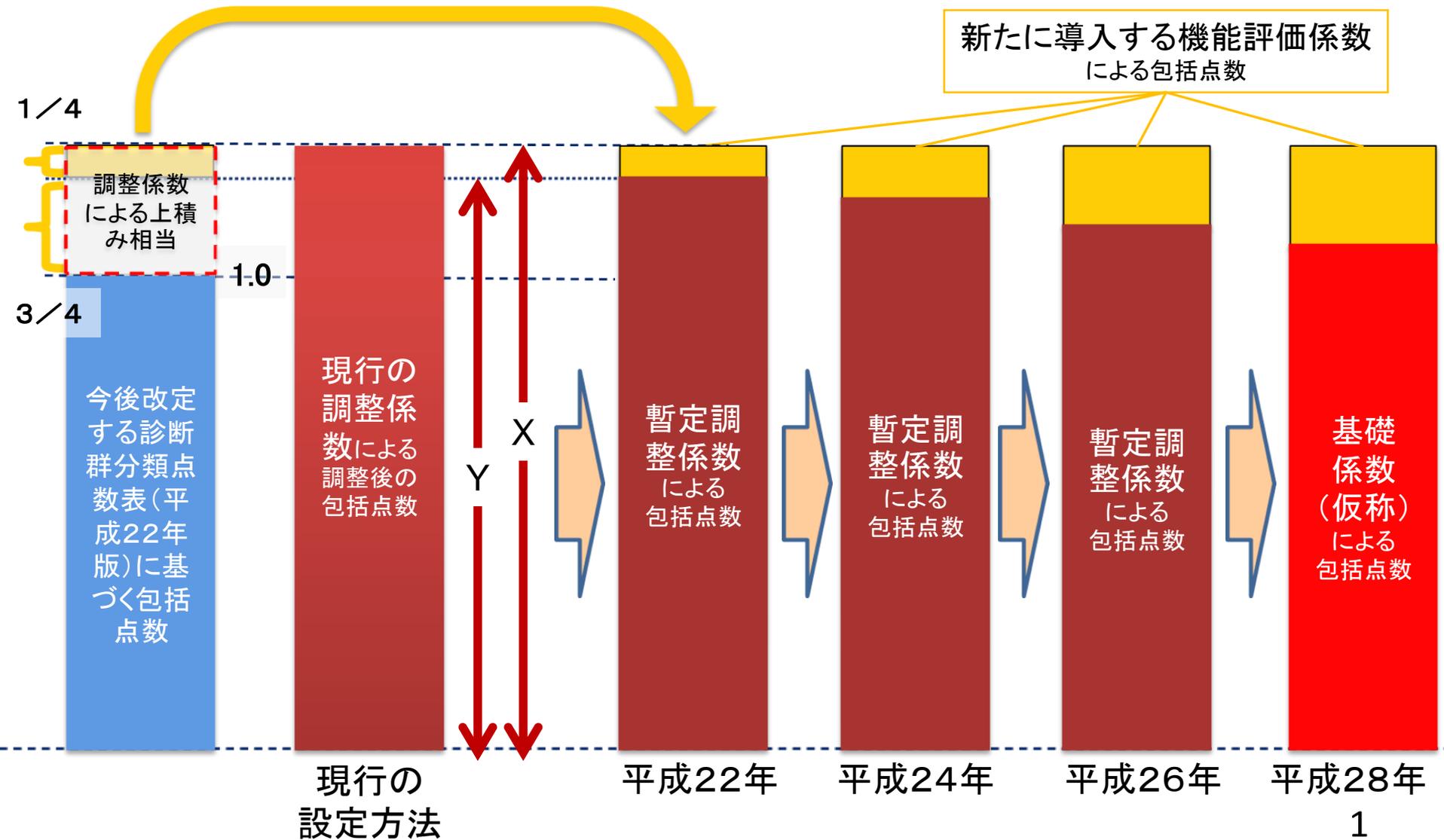
（2）平成22年度診療報酬改定も踏まえながら、新・機能評価係数と暫定調整係数の設定方法やそれに基づく診療報酬の評価方法（重み付け等）について引き続き検討し、平成24年度診療報酬改定を目途に医療機関別係数のあり方について整理する。

新たな機能評価係数の設定(案)

	名称(案)	考え方	設定方法
1	<ul style="list-style-type: none"> ○データ提出・公開指数 ○データ提出指数 ○データ提供指数 ○提出データの質指数 	対象病院における詳細な診療データの作成・提出に要する体制と、そのデータが活用されることで、医療全体の標準化や透明化等に貢献することを評価	<p>[指数]</p> <p>=</p> <p>①データ提出の遅滞 ②部位不明、詳細不明のICD10コード使用割合が40%以上の場合に 応じた定数で評価</p> <p>※非必須項目の入力状況による評価は行わない。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ○効率性指数 ○相対平均在院日数指数 	平均在院日数の変動に伴う病棟業務量の増減について、患者の疾病構造の違いを補正した 在院日数の相対値により評価	<p>[指数]</p> <p>= 全DPC対象病院の平均在院日数 ／ 当該医療機関の患者構成が、全DPC対象病院と同じと 仮定した場合の平均在院日数</p> <p>※ 当該医療機関において、10症例(10か月)以上ある診断群分類のみを 計算対象とする。 ※ 包括評価の対象となっている診断群分類のみを計算対象とする。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ○患者構成指数 ○複雑性指数 	対象病院における診療の複雑さについて、当該病院における一入院あたり 包括点数の相対値により評価	<p>[指数]</p> <p>= 当該医療機関の包括点数(一入院あたり)を、診断群分類ごとに全病院の 平均包括点数に置き換えたもの ／ 全病院の平均一入院あたり包括点数</p> <p>※ 当該医療機関において、10症例(10か月)以上ある診断群分類のみを 計算対象とする。 ※ 包括評価の対象となっている診断群分類のみを計算対象とする。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ○カバー率指数 ○総合性指数 	様々な疾患に対応できる総合的な体制について、当該病院で算定している 診断群分類の広がり(種類の多さ)により評価	<p>[指数]</p> <p>= 当該医療機関で一定症例数以上算定している診断群分類数 ／ 全診断群分類数</p> <p>※ 当該医療機関において、10症例(10か月)以上ある診断群分類のみを 計算対象とする。 ※ すべて(包括評価の対象・対象外の両方を含む)の診断群分類を 計算対象とする。</p>

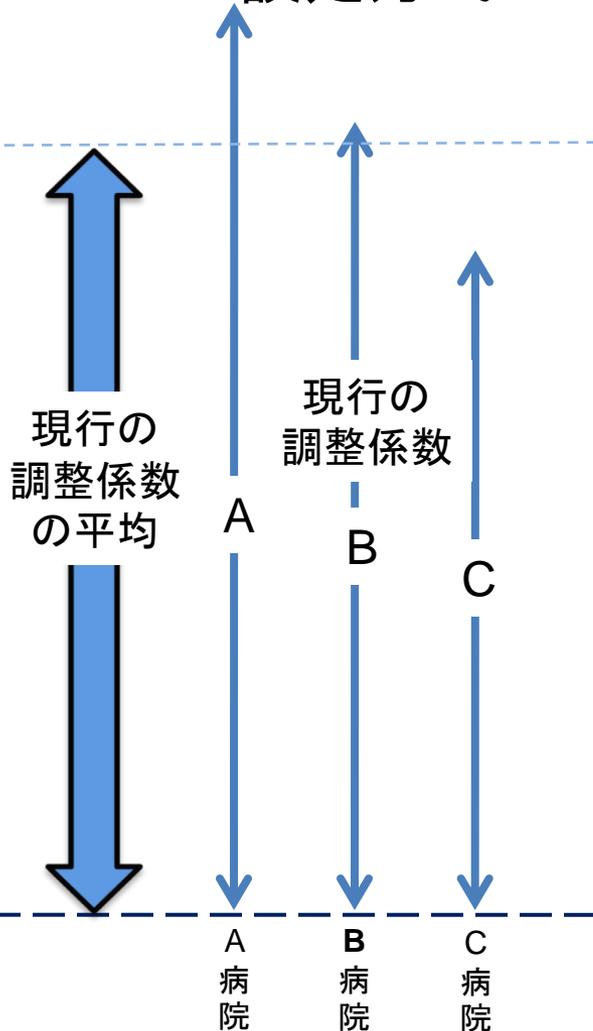
	名称(案)	考え方		設定方法
5	○救急医療指数	包括点数では評価が困難な救急入院初期の検査等について、救急患者に占める割合により評価		<p>[指数]</p> $= \frac{\text{救急車あり又は入院初日の初診料において時間外・休日・深夜加算ありのDPC対象患者数}}{\text{DPC対象患者数}}$
6	○地域医療指数	地域医療への貢献について、2つの視点で評価	<p>[視点1]</p> <p>配置人員や患者数等による体制の評価(全国共通の基準)</p>	<p>(救急患者の受け入れ体制の評価のイメージ)</p> <p>1:・救急患者数(又は割合)が○以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急部門に医師、看護師が常に専従で配置 ・薬剤師、臨床検査技師、放射線技師が常に専従又は専任で配置 <p>2:・救急患者数(又は割合)が△以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師、看護師が常に専従又は専任で配置 ・薬剤師、臨床検査技師、放射線技師が常に専従、専任又はオンコールで配置 <p>3:・救急患者数(又は割合)が□以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の要件なし <p>※ 救急患者:救急車あり又は入院初日の初診料において時間外・休日・深夜加算ありのDPC対象患者数</p>
			<p>[視点2]</p> <p>地域の実情を踏まえた一定の役割について評価(地域に応じた相対的な基準)</p>	<p>(評価のイメージ)</p> <p>例えば、都道府県が策定する医療計画(4疾病・5事業)等において、一定の役割が位置づけられている施設に対して、一定の指数により評価</p> <p>※4疾病:がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病 5事業:救急医療、災害時における医療、へき地の医療、周産期医療、小児救急医療を含む小児医療</p>
7	○チーム医療指数	<p>チーム医療の取り組みによる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療安全 ・勤務医負担軽減 ・医療の質 ・医療の効率化 ・医療の透明化 <p>等々を評価</p>		今後の取り扱いについては更に検討

新たな機能評価係数の導入及び調整係数の段階的廃止の概念図(案) (全DPC対象病院の総点数の変化)



平成22年改定における暫定調整係数の概念図(案) (個別病院ごとの変化)

現行の調整係数 設定方式



新しい設定方式

